

井原すがこ

令和4年
9月定例会

討議資料

県議会報告

No45

2022年10月

県民葬は地方自治法に基づき地方公共団体が行う事務に含まれるとされていますが、これは実施が決まりた場合に地方の事務になることが定められているだけで、法的根拠にはなりません。対象者の選定などの客観的基準を定めた条例が必要です。

質問

背景や問題点



安倍元首相の安葬と同様に、県民葬についても様々な疑問がありましたので、その実施基準や法的根拠などにつき、県の考え方を質しました。

質問

県民葬の実施について、誰が、どのような手続きで、決定したのですか。

実施の基準はなし

答弁

県民葬の実施については、これまでの例も踏まえて、その都度関係者と協議して決定しており、基準はありません。

答弁

県民葬を執り行うことについて、ご遺族の意向を確認の上、県として決定しました。また、葬儀委員会の構成員になることに

また、事前に県議会には何らかの相談をしたのですか。県民の内心に一定の影響を与える重要な儀式である県民葬を、明確な法的根拠もなく、また県民の代表で



第13回 ミニ

すがこと話そう！

日時 22年11月19日（土）

10時～12時

場所 岩国市民文化会館 第3研修室
広中英明市議参加

ある県議会に正式に相談することなく実施することは、知事の権限乱用です。少なくとも、県民が理解できる客観的基準を作るべきです。

安倍元総理県民葬

主催：故安倍晋三先生県民葬儀委員会

委員：山口県、山口県議会、山口県市長会、山口県町村会、山口県市議会議長会、山口県町議会議長会、自由民主党山口県支部連合会

安倍家、安倍晋三後援会

（山口県HP参照）



人命よりも 工業用水が大事？

9月中旬山口県を襲った台風14号は、大雨による河川の氾濫など錦川流域に大きな被害をもたらしました。

その原因の一つは、適切なダムの放流ができなかつたことであると、被災者の方々から声があがっています。

今議会で私は、大雨予報に応じた事前放流をもっと効率的にするよう求めましたが、菅野ダムは、周南地域への工業用水供給のため放流を渋る傾向にあり、人命の安心安全をなにより守る姿勢が県には見られませんでした。

通知とは

県が県内の関連機関に出す『通知』は重いもので、それを受け取った出先機関はそれに従うことが求められています。

しかし、安倍元首相の国葬では、半旗掲揚の通知を県立高校へ出したものの岩国市内では殆どの県立学校で半旗が掲揚されませんでした。

つまり、県の通知には従わなくともよいということです。通知とはその程度のものだったのかと。

井原すがこ後援会事務所

郵便 740-0017
住所 岩国市今津町
4-11-20
コード番号 1階
電話 0827-21-9808

お気軽にお立ち寄りください

予測雨量等が基準に達した
事前放流は、国
のダムに比べてい
かにも開始時期が
遅かったのではないかですか。
事前放流の経過とそれに対
する県の評価を教えて下さい。

答
弁

菅野ダムの
事前放流は、
台風の進路、

今回の菅野ダム
の事前放流は、国
のダムに比べてい
かにも開始時期が
遅かったのではないかですか。
事前放流の経過とそれに対
する県の評価を教えて下さい。

質問

ことから、9月18日18時30分に開始、翌日4時に終了しました。これにより、約140万立方メートルの洪水調節容量を追加で確保することができます。

質問

菅野ダムの放流
が今回の災害の原
因になったのではないか。
事前

菅野ダムの管
理に問題がなかつたか、質しました。

菅野ダムの
事前放流のルール作りを急げ

対し、約700立方メートルをカットし、放流量を毎秒約450立方メートルに抑えるなど、洪水調節を適切に実施したことにより、

異常気象による常識を超える大雨にも対応できる事前放流のルール作りを求めるべきです。これでは、大型台風に備える十分な対策とは言えません。今後がつただけです。

野と向道両
ダムの事前
放流などの
調整不十分
と思われる。
洪水のた
びに指摘されてきたが、いま
だ解決されていない。県民第一の対策を望む。（投稿）

背景や
問題点

今回の台風14号により錦川中流域の南桑や河山などでは、床上浸水などの被害が発生しました。被災者から、「ダムの放流が原因だ。急に水位が上がった。もっと早く事前放流すべきだった」との声が多く寄せられましたので、菅野ダムの管理に問題がなかつたか、質しました。

放流により、例えばダムの貯水位260メートルのうち、予め數十メートル程度引き下げておけば、今回の降水量にも十分耐えることができたのではないかですか。



のコメント



氾濫危険水位突破

台風14号は9月19日に来襲、錦川上流域では大きな被害が発生した。臥龍橋の水位も急上昇し、あっという間に5.3mの氾濫危険水位を突破した。水位の上昇グラフは急上昇の右肩上がりだった。上流の菅